

平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	柘磨 昭孝	☑定・通	☑分
----	-----	-----	-------------	------	-------	------	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

① 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進

- ・生徒の授業評価では、第1回授業アンケート肯定的指数 3.44 から第2回は 3.52 と上昇した。ICEモデルを軸とした授業構築の実施率は、目標の 80%を上回り、100%であり全員で組織的に取り組んでいる。
- ・業務改善に係るアンケート結果では、本校策定の業務改善取組計画について全体で取り組んでいる率が 63.8%と、目標値 60%を超えた。

② 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・大学入試センター試験全国平均通過率は、目標に 1 名達しなかったが前年度よりも人数は増加し、国公立大学合格数は目標値の 100 人を達成できなかったが、昨年度を大きく上回った。
- ・1 学年の 1 月模試結果において、偏差値 54 以上の人数は 85 人と目標値を超えた。
- ・第1回オープンキャンパスに 1,087 人、第2回目に 420 人が参加し、目標値を超えた。いずれも 90%以上の肯定的評価を得た。
- ・本校 HP の充実に向け、中学校や地域・保護者への案内や学校での行事や部活動等の内容をタイムリーに更新し、目標回数を超えた。

③ 北高生として自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成、個に応じた指導や支援の充実

- ・定例会議で生徒の状況を適宜共有し、校内委員会で協議する等など、早期の生徒支援につなげることができた。月1回の教育相談は十分に活用され、カウンセラーと連携のうえ効果的な支援ができた。
- ・アンケート結果では、美化強化月間や小中高合同美化活動、美化委員会を通して積極的に清掃活動に取り組む意識が向上した。

(2) 課題

① 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進

- ・定期考査における活用問題 E レベル出題率は、C レベルが多いが、E レベルの出題については目標の 10%を下回り、9.19%であった。

② 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・国公立大学合格者は昨年度を超えたが、100 人未満と目標値を達成できなかった。
- ・第2学年の 1 月模試では目標値を大きく下回った。2月マークでは 66 人と少し挽回している。
- ・大学入試センター試験全国平均通過人数は、前年度よりも人数は増加し、生徒の努力と教員の指導力により目標値程度となった。
- ・中高生の科学研究実践活動推進プログラムを中心として探究コースのベースができてきた。

③ 北高生として自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成、個に応じた指導や支援の充実

- ・家庭学習時間は年間通じて全学年とも目標を下回った。1 月の達成率は 2 年のみ目標値を上回り、3 年は夏季休暇後に目標値を超えた。
- ・刻者数の目標は達成できなかったが、配慮を要する生徒に関するデータを含んでおり、全体としては概ね良好であった。
- ・ボランティア活動や交通安全啓発活動など、部活動や学校行事以外にも生徒会を中心とした主体的な活動が見られるようになってきた。
- ・部活加入率は、目標を下回ったが4月当初の加入率を維持できている。
- ・中国大会出場については、目標値に若干届かなかったが、目標を明確にして、集中力の高い中で活動できる部活が増えてきた。

2 今後の改善方策

① 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進

- ・主体的な学びの促進については、今年度作成した各教科のルーブリックを各単元の授業評価・シラバス・定期考査における評価に反映していく。また、授業づくりに関して講師の方々を招聘したり、活用問題の質の向上に努めたり、更なる問題づくり研究を強化する。
- ・業務改善については、新たな取組が増えており、主任及び教職員の業務分担を明確にする必要がある。各分掌で業務内容を改めて洗い出し、校務運営会議で検討を行う。

② 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・基礎学力の定着に向け、初期指導のみならず進路検討会議資料の充実や教科担任面談、進路意識の高揚を図った学年集会等を更に充実させ、より計画的・組織的に行われるように体制づくりを行う。
- ・大学入試問題研究を行い、そのような問題を授業内容に盛り込むなど授業改善を図る。また、補習等の学力向上に係る事業や進路別指導等の在り方を改めて見直し、より効果的な指導となるように再構築を行う。
- ・模試の過去問題や入試問題を授業の中で効果的に扱い、到達度が測れるように週末課題(模試過去問題含む)等の難易度を調整しながら計画的に課すことで、学力の向上を図る。
- ・第1回オープンキャンパスは、体育館の収容人数と気候を考慮するとこれ以上参加者が増えると運営が難しく、午前・午後の2展開で実施するなど工夫を行う。また、第1回と第2内容を、第1回目は学校紹介・第2回目は入試説明会とするなど、目的を明確にする。
- ・理数コンピテンシーに係る文献研究を行い、高校段階で効果的に育成できるようなレベルや内容に再構成し、指導の実践性を高める。また、生徒の自己評価能力、特にメタ認知能力を高め、理数コンピテンシーに係るストラテジーを生徒自身が意識して活用できるようなプログラムを作成し、評価・改善を行う。

③ 北高生として自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成、個に応じた指導や支援の充実

- ・各教科の初期指導を含め、予習・復習方法の具体的な指導を生徒に行う。また、家庭学習の内容及び成果が日々の授業とリンクして十分に生かされるような学習指導、授業づくりに取り組む。
- ・宅週時間記録様式の簡素化を図り、生徒が毎朝、前日を振り返りながら記入できるよう指導を工夫していく。
- ・次年度より、週1回以上の部活動の休養日を設定することで、心身の疲れを取り、学習時間の確保と部活動と学習との両立を推進する。
- ・遅刻については、これまでの校門指導に加え、遅刻者に対する指導を行う。
- ・部活顧問と担任との連携を深め、4月の部活加入率を年度末まで維持する。
- ・保護者対象アンケート結果では、本校の教育相談体制について、よくわからないという回答が 17%を超え、他校の実践例を参考にするなどの方法を検討する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

適切な目標設定と取組が進められ、目標実現に向けて着実に前進しているとの評価をいただいた。国公立大合格数や理数コースの教育内容の改善、主体的な学びの促進に向けた取組など、上記のとおり現状を乗り越え、更に組織的・計画的な取組を推進する。